

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2002年度

2003年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の縁、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展した。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成15年3月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

## 例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成 14 年度国庫補助事業（総額 1,000,000 円、国庫 50% として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。

2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第 44 次調査	池田市達石町 1931-3	平成 14 年 4 月 15 日～4 月 18 日
宮の前遺跡第 35 次調査	池田市石橋 4-64-9	平成 14 年 9 月 2 日～9 月 13 日
宮の前遺跡第 36 次調査	池田市住吉 2-100-5 他	平成 14 年 11 月 26 日
神田北遺跡第 12 次調査	池田市神田 1-1255-1, -3	平成 14 年 12 月 11 日～12 月 27 日

3. 調査は、池田市教育委員会教育部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。

4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。

5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。

6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I	歴史的環境	1
II	池田城跡発掘調査	5
	はじめに	5
	池田城跡第 44 次調査	6
III	宮の前遺跡発掘調査	7
	はじめに	7
	1 宮の前遺跡第 35 次調査	8
	2 宮の前遺跡第 36 次調査	9
IV	神田北遺跡発掘調査	10
	はじめに	10
	神田北遺跡第 12 次調査	11

図 版

- 図版 1 (1) 池田城跡第 44 次調査 トレンチ全景 (南から)  
(2) 宮の前遺跡第 35 次調査 トレンチ全景 (北から)
- 図版 2 (1) 神田北遺跡第 12 次調査 トレンチ全景 (南から)  
(2) 神田北遺跡第 12 次調査 トレンチ全景 (東から)

## 挿図目次

### I 歴史的環境

第1図 煙出土有茎尖頭器	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 堪穴住居（神田北遺跡第6次調査）	3

### II 池田城跡発掘調査

第4図 堪穴住居（池田城跡第24次調査）	5
池田城跡第44次調査	
第5図 調査地位置図	5
第6図 トレンチ位置図	6
第7図 トレンチ北面断面図	6

### III 宮の前遺跡発掘調査

第8図 調査地位置図	7
宮の前遺跡第35次調査	
第9図 トレンチ位置図	8
第10図 トレンチ平面図	8
宮の前遺跡第36次調査	
第11図 掘削状況	9
第12図 トレンチ位置図	9
第13図 トレンチ南面断面図	9

### IV 神田北遺跡発掘調査

第14図 土器川土状況（神田北遺跡第11次調査）	10
神田北遺跡第12次調査	
第15図 調査地位置図	10
第16図 トレンチ位置図	11
第17図 トレンチ平・断面図	11
第18図 出上遺物実測図	12

## I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西 4.1 km、南北 9.2 km の南北に細長い市域で、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、池田は古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された冲積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高 50m の緩やかな五月丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な冲積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

### 旧石器時代

現在のところ旧石器時代についての遺跡は少ない。旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、禪城寺遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約 50m の五月山丘陵の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、旧石器が表土収集され、発掘調査では、昭和 61 年度の大坂府教育委員会で国府型ナイフ形石器や平成元・7 年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片 1 点が採取されている。新たな遺跡として、平成 12 年度の大坂府教育委員会による禪城寺遺跡の調査でサヌカイト剥片 1 点出土している。

### 縄文時代

市域北部の遺跡で縄文時代の遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙 1 点採取されているのみである。

伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鏸、京中遺跡でサヌカイト製の石鏸・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鏸や晚期の生駒西麓座穴帶文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鏸・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期から晚期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。



第 1 図 畑出土有茎尖頭器



- |            |               |               |                |
|------------|---------------|---------------|----------------|
| 1. 鎌ヶ淵遺跡   | 2. 古江古墳       | 3. 古江北古墳      | 4. 吉田遺跡        |
| 5. 古江遺跡    | 6. 木部遺跡       | 7. 木部1号墳      | 8. 木部2号墳       |
| 9. 木部桃山古墳  | 10. 愛宕神社遺跡    | 11. 伊房太神社参道遺跡 | 12. 神三室古墳      |
| 13. 桜三室南古墳 | 14. 池田城跡      | 15. 池田茶臼山古墳   | 16. 五月ヶ丘古墳     |
| 17. 藤深北遺跡  | 18. 善導1号墳     | 19. 善導2号墳     | 20. 石鏡寺        |
| 21. 新鶴西遺跡  | 22. 煙有茎尖頭器出土地 | 23. 京中遺跡      | 24. 夏浦池遺跡      |
| 25. 野田塚古墳  | 26. 外環古墳      | 27. 外環南遺跡     | 28. 弧坂古墳       |
| 29. 石橋古墳   | 30. 二子塚古墳     | 31. 沢城寺遺跡     | 32. 宇保堺名津彦神社古墳 |
| 33. 宇保遺跡   | 34. 神田北遺跡     | 35. 駒塚古墳      | 36. 門川遺跡       |
| 37. 神田南遺跡  | 38. 天沢遺跡      | 39. 豊島前遺跡     | 40. 佐古宮の前遺跡    |
| 41. 宮の前遺跡  | 42. 待兼山遺跡     | 43. 旗塚        |                |

第2図 遺跡分布図

## 弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北廻に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。

弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居、**第3図 竪穴住居（神田北遺跡第6次調査）**上塙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴住居が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴住居、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

## 古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳で、主体部はともに竪穴式石室である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文帯神獣鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓域内に竪穴式石室と粘土椁が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。

古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居、溝が検出されている。



## 歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる吳庭莊と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津人臣により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、排列建物跡等を確認している。

## 参考文献

- 『原始・古代の池田』 池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年
- 『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報5』 大阪府教育委員会 2002年

## II 池田城跡発掘調査

はじめに

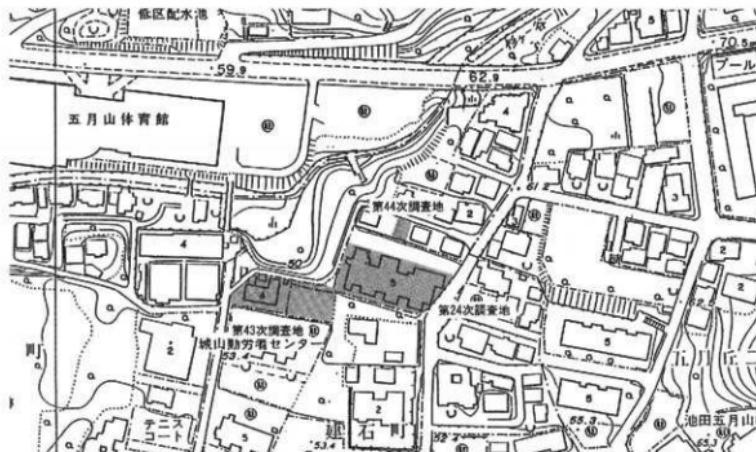
池田城は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高 50m を測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田の町を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀末頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀中頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになつた。しかし、永禄 11 年（1568）織田信長による摂津入圍に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなつた。

池田城跡の主郭部は、現在でも空堀が



第4図 堅穴住居（池田城跡第24次調査）



第5図 調査地位置図

良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っている。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査がなされ、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる壇列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明している。

池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、古墳時代後期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成3年度の池田市教育委員会による第24次調査では、庄内期のベット状遺構を伴う堅穴住居が検出されている。

#### 池田城跡第44次調査

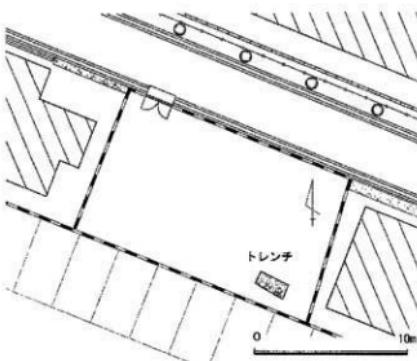
##### 調査の概要

発掘調査は池田市建石町1931-3において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地は池田城跡の北端に位置しており、周辺の発掘調査の結果として、本調査地の南に位置する第24次調査では庄内期のベット状遺構を伴う堅穴住居が検出されている。

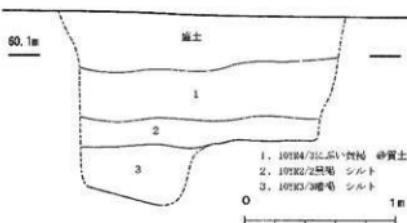
このようなことから本調査においても、弥生時代等の池田城に関する以外の遺構が検出される可能性があるため、試掘調査を実施した。調査面積は2m<sup>2</sup>である。

基本層序は第1層は表土、及び、盛土、第2層は褐黄色の砂質土、第3層は灰黄色の粘質土、第4層は灰黄色の粘質土、第5層はにぶい褐色粘質土の地山である。

調査の結果、遺構、遺物の検出には至らなかった。



第6図 トレンチ位置図



第7図 トレンチ北面断面図

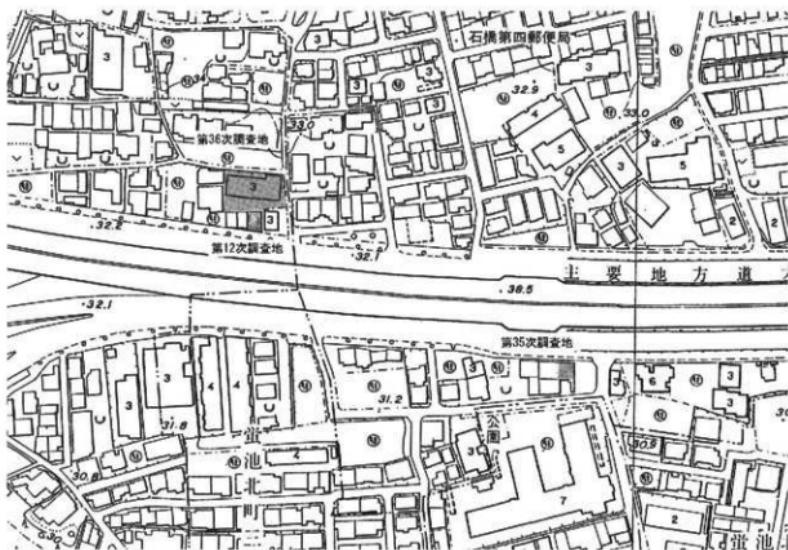
### III 宮の前遺跡発掘調査

#### はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡で、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地する。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、古墳時代前期の竪穴住居が検出された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、古墳時代前期の掘立柱建物が検出された螢池東遺跡、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡がある。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取されたことにより、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査は行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居、土塙墓等の他、古墳時代の竪穴住居、古墳等が検出された。特に、当時、検出例が少なかった方形周溝墓が住居とともに多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。他にも、奈良時代の掘立柱建物、井戸、平安時代の掘立柱建物等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会によるマンション等の開



発に伴う事前調査で、遺跡の範囲は東西700m、南北900mと拡大している。昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

#### 参考文献

- 『宮之前遺跡発掘調査概報』 宮之前遺跡調査会 1970年
- 『螢池北遺跡（宮の前遺跡）』 豊中市教育委員会 1995年
- 『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年

#### 1 宮の前遺跡35次調査

##### 調査の概要

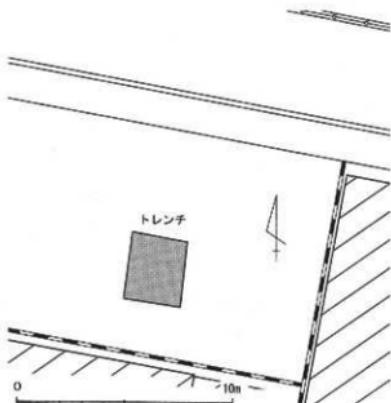
調査地は池田市石橋4丁目64-9に位置する。調査は個人住宅に伴い実施した。本調査地は、周辺の調査の結果、遺物包含層の存在が予想されるため、小規模なトレンチ設定し、調査を実施した。調査面積は5m<sup>2</sup>である。

##### 調査の概要

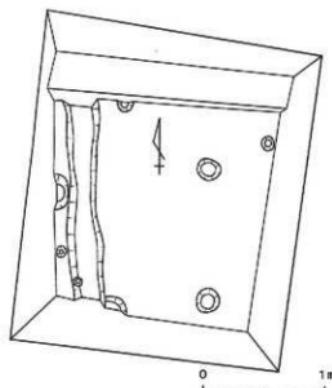
層序は4層からなる。第1層は盛土、第2層は耕土、第3層は赤黒色粘質土、第4層は赤黒色粘質土の遺物包含層、第5層は遺構検出面の黄褐色粘質土の地山である。第4層の遺物包含層からは瓦器を中心とする中世の遺物が出土した。

第4層上から溝1条、第5層（地山）上から柱穴を検出した。溝は幅50cm、深さ30cmを測り、ほぼ南北方向に走る。時期は中世以降と考えられる。柱穴はそれぞれ深さが10cm前後と浅く、また、遺構内からは遺物は検出されなかった。

本調査区から出土した遺物は、すべて第4層の遺物包含層からである。遺物はすべて小片で、図化はできなかった。



第9図 トレンチ位置図



第10図 トレンチ平面図

## 2 宮の前遺跡第36次調査

### 調査の概要

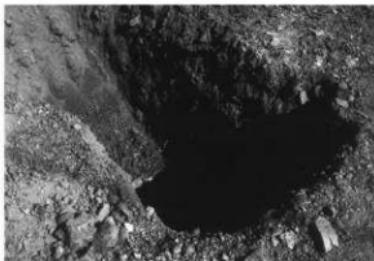
調査地は池田市住吉2丁目100-5他に位置する。試掘調査は建売住宅建築に伴い実施したものである。本調査地は宮の前遺跡が位置する台地の中央に位置し、また、南に位置する第12次調査では弥生時代中期の竪穴住居等が検出されており、本調査地に広がっている可能性もある。しかし、調査地は以前マンションが建っており、遺構のほとんどが破壊されていると考え、マンションが位置していた場所を避け、調査地の南部隅にトレンチ（3m×1m）を設定し、調査を実施した。

### 調査の概要

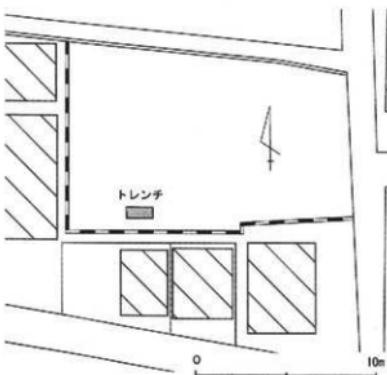
層序は3層からなる。第1層は盛土、第2層は赤褐色粘質土、第3層は黄褐色粘質土の地山である。

調査の結果、遺構・遺物の検出には至らなかつた。

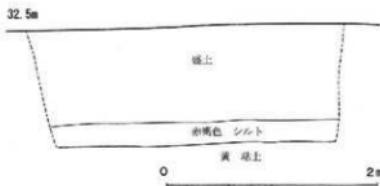
しかし、周辺の調査では竪穴住居等が検出されていることから、今後の開発には注意を要する。



第11図 挖削状況



第12図 トレンチ位置図



第13図 トレンチ南面断面図

#### IV 神田北遺跡發掘調査

はじめに

神田北遺跡は池田市神田1・2丁目、八王子1丁目一帯にひろがる縄文時代から中世にいたる複合遺跡である。

当遺跡は昭和15年に石鐵の発見により周知される。同年、発掘調査が行われ、縄文時代の石鐵、弥生時代後期の土坑や須恵器等が見つかっている。

その後のマンション・住宅建築等に伴う事前の発掘調査により、弥生時代後期の竪穴住居、奈良時代の掘立柱建物、中世の掘立柱建物などが見つかり、徐々にではあるが遺跡の概要が判明しつつある。

周辺の調査として、神田北遺跡より北に位置する輝城寺遺跡で、飛鳥時代の堅穴住居が見つかり、また、大阪府教育委員会による調査で旧石器時代のサヌカイト剥片1点見つかっている。



第14図 土器出土状況（神田北遺跡第11次調査）



第15図 調査地位置図

## 神田北遺跡第1・2次調査

### 調査の概要

調査地は神田1-1255-1, -3に位置する。この調査は遺構確認調査である。

調査地の東側にトレーニングを設定し掘削を開始した。調査面積は20 m<sup>2</sup>である。

層序は第1層が盛土、及び耕土、第2層は褐色の砂質土、第3層はにぶい黄褐色の粘質土、第4層はにぶい黄褐色の粘質土の地山である。南側において地山上ににぶい黄褐色の粘質土が入る。

上層の遺構は第2層上から溝1条を検出した。溝は南北に走り、現状では幅20cm、深さ10cmを測る。年代は中世以前とされる。

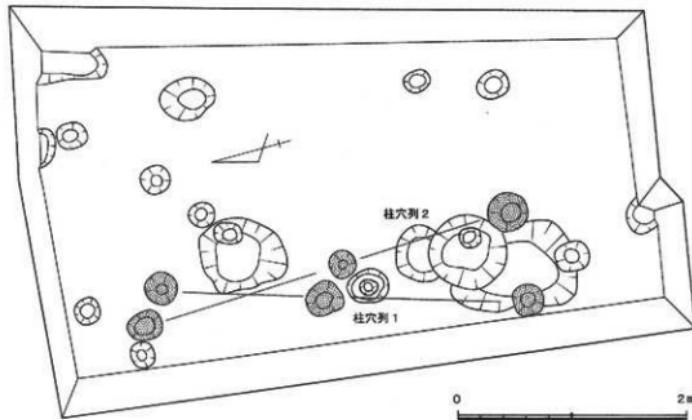
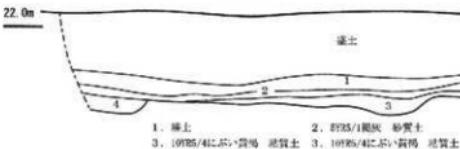
下層の遺構は第4層地山上から柱穴・土坑等を検出した。

### 柱穴列1

2間1列の以上で、1間1.42m(北)、1.78m(南)の間隔である。柱穴はほぼ円形で、直径28~32cm、深さ20~30cm



第16図 トレーニング位置図



第17図 トレーニング平・断面図

を測る。主軸はN—19°—Eを向く。柱穴内から瓦器碗などの遺物が出土したが、図化できるものはなかった。

#### 柱穴列2

2間1列の以上で、1間1.78m(北)、1.52m(南)の間隔である。柱穴はほぼ円形で、直径24cm~34cm、深さ5cm~30cmを測る。柱穴内から瓦器碗などの遺物が出土したが、図化できるものはなかった。主軸はほぼ磁北を向く。

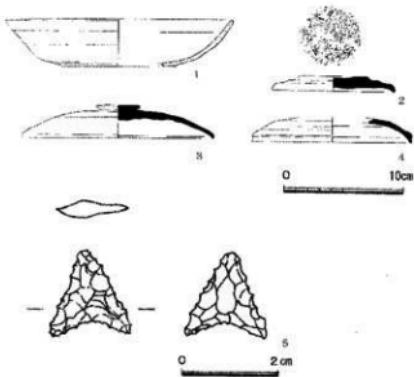
柱穴列1・2とともに調査区外西に延びる掘立柱建物と推測できる。

その他の遺構は直径30cm前後の柱穴13、直径50~70cmの土杭・柱穴5、長軸1.05mの土杭1である。

#### 出土遺物

1・2・4は第3層、3は第2層上の溝から出土した。1は瓦器碗で、高台は小さく、断面は三角形である。2~4は須恵器の蓋杯で、2は糸切りの痕がのこる。3は天井部への立ち上がりは緩やか曲線で、擬宝珠のつまみの上部は平坦である。4は大井部が欠損しているためつまみが付くかわからない。5はサヌカイト製の石鏡で、南端の地山直上のにぶい黄褐色の粘質土内から出土した。現存の長さ約1.8cm、最大幅1.7cmを測る。一番厚いところで約3.5mmである。先端は欠損している。

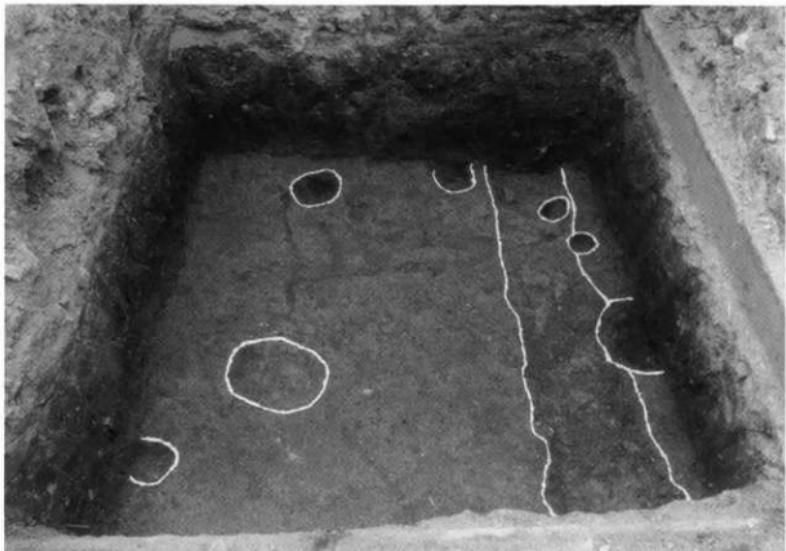
調査範囲が狭いため掘立柱建物の復元は柱列1・2だけであった。柱列1・2の柱穴は直径30cm前後で埋土は灰色であり、直径50cm前後の黒褐色の柱穴とは大きさ・上色が異なる。今までの調査等から直径30cm前後で灰色の埋土の柱穴は中世、直径50cm前後の黒褐色の柱穴は奈良時代と推測できるが、今後の神田北遺跡の調査結果の積み重ねが必要である。



第18図 出土遺物実測図



(1) 池田城跡第44次調査 トレンチ全景（南から）



(2) 宮の前遺跡第35次調査 トレンチ全景（北から）



(1) 神田北遺跡第12次調査 トレンチ全景（南から）



(2) 神田北遺跡第12次調査 トレンチ全景（東から）

## 報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	池田市文化財調査報告第29集							
卷次								
シリーズ名	池田市文化財調査報告							
シリーズ番号	29							
編著者名	中西正和							
編集機関	池田市教育委員会							
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 Tel.072-752-1111							
発行年月日	2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査員	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけだじょうせき 池田城跡第44次	たていじょう 建石町1931-3	272043	—	34度 49分 28秒	135度 26分 01秒	020415 ～ 020418	2 m <sup>2</sup>	個人住宅建設のための事前調査
みやのまえ 宮の前遺跡第35次	いしばし 石橋4-64-9	〃	—	34度 47分 48秒	135度 26分 51秒	020902 ～ 020913	5 m <sup>2</sup>	個人住宅建設のための事前調査
みやのまえ 宮の前遺跡第36次	すみよし 住吉2-100-5他	〃	—	34度 47分 51秒	135度 26分 46秒	021126	3 m <sup>2</sup>	建物建設に伴う事前調査
こうだきた 神田北遺跡第12次	こうだ 神田1-1255-1,-3他	〃	—	34度 48分 31秒	135度 25分 57秒	021211 ～ 021227	20 m <sup>2</sup>	遺構確認調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
いけだじょうせき 池田城跡第44次	城館跡	中世	—	—				
みやのまえ 宮の前遺跡第35次	集落跡	中世	柱穴	瓦器等				
みやのまえ 宮の前遺跡第36次	集落跡	中世	—	—				
こうだきた 神田北遺跡第12次	集落跡	奈良・中世	柱穴	瓦器等				

池田市文化財調査報告第29集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報  
2002年度  
2003年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 社会教育課 文化財担当  
印刷 西村印刷株式会社